

先住民研究の課題および調査方法の変化と展望

北米北西海岸先住民研究を中心に

岸上伸啓（国立民族学博物館）

先住民とは、ある地域に先住していたが、後続の移住者の増加によって政治経済的少数派となり、国家の中で政治的に支配されている、特定の集団意識を持つ人々を意味する。本多俊和（スチュアートヘンリ）は、特定集団の人びとの国家の中での先住性、政治的被支配性、集団としての自己認識を「先住民」であることの重要な条件であると指摘している（スチュアート2004）。そしてカナダのイヌイトやクリー、ハイダらの先住民が特定の国家や地域において直面している土地権や経済・社会・文化・健康などに関する諸問題は、「先住民問題」と呼ばれ、かつては基本的に国家と先住民との間の問題であった。

グローバル化が進み 1980 年代になると先住民問題は国家との問題であることに加えて、国連や国際 NGO・NPO が世界各地の先住民問題を国際問題として取り上げるようになった。このため、国際 NGO・NPO からの助言や協力のもとで先住性の確定が難しいアフリカのサンのような狩猟採集民も「先住民」と名乗り（名付けられ）、先住民の本来持つことができる諸権利の実現に向けた政治・社会運動に参加するようになった。このため、先住民問題は、国家と先住民との関係から先住民と国際社会・国家との関係をめぐる問題へと変貌を遂げた。

このような国際的・政治・社会情勢の変化にともない、「先住民研究」という分野が出現した。研究者は、狩猟採集民であったイヌイトやサンをそれぞれカナダの先住民やボツワナの先住民として研究するようになった。1970 年代までは大半の研究者は彼ら/彼女らの好奇心や探求心に基づいて世界各地の狩猟採集民グループを調査研究していた。調査する研究者（主体）と調査される狩猟採集民グループ（客体）に分かれる調査形態が主流であった。

1970 年代になるとアメリカやカナダ、オーストラリア、ニュージーランドにおいて先住民が権利獲得運動をより積極的に展開し、それぞれの国家において先住民問題は対処すべき国家的課題となった。このため、社会的要請に応じて先住民問題の解決に資する研究に力点が置かれるようになり、各国において文化人類学者らは社会にコミットメントする実践的研究を行うようになった。当初は、研究者が調査を行い、問題解決について政府や先住民グループに提言を行う「研究者による協力調査・提言型研究」が主流であったが、1980 年代以降は徐々に研究者と先住民グループが連携して調査を行い、その成果を問題解決へ活用すると

いう「研究者と先住民による協働研究」が急増した。

1990 年代になると先住民グループが主導する研究が増加し、彼ら自身が調査される側から調査する側に変化するとともに、非先住民研究者による研究に批判的になり、「Indigenous Research Methodologies」(たとえば Smith 1999)なども提案されるようになった。このような傾向は、地域差があるものの、カナダやアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドではとくに顕在化している。これらの国々における先住民研究は、協働調査と先住民主導型研究プロジェクト、問題解決を志向する実践的研究の増加によって特徴づけられる。言い換えれば、「伝統的な」民族誌的研究から先住民自身が参加する現代の諸問題の解決をめざす実践的研究へとの変化といえることができる。

本発表では、北アメリカ北西海岸先住民ハイダに関する研究動向を事例として先住民研究の課題および調査方法の変化を検証する。現在、ハイダの人びとは、カナダの先住マイノリティとして、政治問題（脱植民地化および政治的問題解決のためのランド・クレームや遺骨・文化財返還問題）、経済問題（貧困）、社会問題（アルコール・薬物依存）、文化問題（母語やアイデンティティの継承）、健康・保健問題（平均余命の低さ・健康被害）、環境問題（気候変動・環境汚染）などに直面している。近年の先住民研究は、これらの諸問題の解決や改善に深く関わっている。報告者は、多様な立場と視点、比較と相対化を重視する文化人類学的先住民研究では、先住民社会の問題解決や未来社会の構築のためにフォーラム型人類学や超学際的アプローチを実践することを提案する。

引用・参考文献

加藤博文(2021)「先住民考古学の成立背景と課題—アメリカ合衆国における事例考察—」『アイヌ・先住民研究』1: 121-143。

Smith, Linda Tuhiwai (1999) *Decolonizing Methodologies: Research and Indigenous Peoples*. London: Zed Books.

スチュアートヘンリ (2004) 「先住権と権原」
<https://www.ff-ainu.or.jp/about/files/sem1611.pdf> (2021 年 12 月 29 日閲覧)

(記) 本発表は、令和 3 年度科学研究費補助金・基盤研究(A)「北米アラスカ・北西海岸地域における先住民文化の生成と現状、未来に関する比較研究」(課題番号: 19H00565)の成果の一部である。

キーワード：先住民研究、協働調査、フォーラム型研究、北西海岸先住民、ハイダ